

# 里子を育てる

長田秀夫・礼子牧師夫妻

子どもの総数は減っているのに、保護を必要とされる児童の数は逆に増えている。児童養護施設もあるが、子どもの養育を施設だけに任せておいてよいのだろうか。

実の親に育てられない子を育てる制度に里親制度があるが、里親とはどういう働きであるのかは広く知られていない。長野市里親会の会長である長田秀夫・礼子牧師夫妻（改革派長野教会）に、どのようなきっかけで里親を始めたのかを伺った。

一里親を始められたのはいつですか。また、きっかけは何でしょう。奥さまは初めから賛成なさったのでしょうか。

秀夫 教会の建物ができてからだから、89年です。その前は、小さな家に家内の母と3人の子どもが住んでの開拓伝道でしたから、里子どもころではありませんでした。

礼子 長野に来てすぐに市役所に行きましたら、「里親会会場」という掲示がありました。それで、家に帰って「長野には里親会っていうのがあるみたい」と話したんです。それまでにも「里親をやりたい」とは、それとなく聞かされていたんです。籍を入れる養子とは違って、その子に必要な期間、預かって育てるのが里親です。

## ○疎開で家族がバラバラに

秀夫 私の生まれ育った甲府は、大空襲を受けて市内が一晩で焼け、1000人以上が亡くなりました。その後、家族はバラバラになって、母の実家で世話になったり、甲府の昇仙峡にあるお土産物屋が父方の親類で、その2階に私を含む家族半分が世話になったり、親子、兄弟バラバラになる生活が続きました。数年で元には戻ったんですが、私の心には影響しました。

子ども時代をどう生きるかは大問題です。特に親との関係がうまくいかない、別れて暮らさなくちゃならない、死に別れるなどいろいろあります。私は、「自分が落ち着いた家庭をつくれるようになったら、子どもたちのために何かをしたい」と思っていたんです。

実行までには何年もかかりました。そばに里親をしている人はいませんでした。が、牧師仲間と話をしている時に、「児童相談所から頼まれて、問題のある中学生の女の子の里親をした」という話を聞きました。それを聞いてようやく「じゃあ、自分もできるかもしれない」と思ったんです。

児童相談所や役所に行って話を聞いているうちに、だんだん事情も分かって

きました。施設はたくさんあり、長野市は特に多くて6施設もあるんです。子どもは皆そこに入っていて両親ともいない子などはいない。皆、親はいるんですが、養育環境が整わないのです。（以下省略）